

第16回 トラック輸送における取引環境・

労働時間改善岡山県地方協議会《議事概要》

令和3年11月16日(火) 14:00~16:00

岡山県トラック総合研修会館 4階研修室

1. 開会

2. 出席者紹介（委員名簿及び出席者名簿による紹介）

3. 開会の挨拶《宮長中国運輸局自動車交通部長》

- ・委員の皆様にはお忙しい中、本協議会にご出席いただき感謝申し上げます。
- ・本年9月中旬頃、イギリスでトラックドライバーが不足したことにより燃料が上手く供給できなくなり、ガソリンスタンドが閉鎖され全土でパニック買いが発生し深刻なガソリン不足に陥ったという報道があった。これを見てトラックによる運送、物流というものは国民生活や社会経済に欠かせないものであることをあらためて認識したところである。
- ・国土交通省では、顕在化しているトラックドライバー不足や差し迫っている労働時間の規制強化といった問題に対応するため、「標準的な運賃」を昨年告示した。岡山県は全国と比べて非常に高い届出率となっており、これは事業者をはじめ関係皆様のご尽力の賜物であり深く敬意を表したい。
- ・コロナウイルスがまだ完全に収束しておらず、燃料価格の高騰もあって運賃交渉をするのも難しい状況であることは承知しているが、必要なドライバーの採用や生産性向上に向けた設備投資をするための原資の確保、及び運送事業者の収益改善は必須となってくる。
- ・今後「標準的な運賃」を労働時間短縮につながる実効的なものとするため、委員の皆様には忌憚のないご意見を賜りたくお願い申し上げます。

4. 議題

(1) トラック運送業の働き方改革に向けた厚生労働省の取組について

[資料1に基づき説明（岡山労働局）] ～略～

【有利座長】

- ・令和3年度に行われるという実態調査の結果については、いつ頃どのような形で明

らかになるのか。

【事務局】

・令和3年10月から調査票を順次発送し、現在集計を行っているところである。データは改善基準告示見直しの作業部会における資料として用いられる。調査結果はホームページで公表されることになるので確認はしていただける。

(2) 中央協議会について

[資料2に基づき説明（岡山運輸支局）] ～略～

【宮長自動車交通部長（中国運輸局長代理）】

・資料の補足となるが、取引環境と長時間労働の改善に向けたガイドラインセミナーが今後開催される。対象の業種が違っていてもヒントや気づきがあると思うのでたくさんの方にご覧いただきたい。

・冬期は近年大規模な雪害が発生する傾向にあり、トラックがその中で事故の発端となればマイナスイメージにつながりかねないため、関係先としっかり協力した上で運行計画を立てていただきたい。

【有利座長】

・新型コロナウイルスが荷動きにどう影響しているのか、それぞれの立場から今の状況についてお話しいただきたい。

【菅委員】

・半導体の全世界的な需給バランスが崩れている影響もあり、当社では特に今月は計画していた数の半分程度しか生産できない見込みである。これからもまだ不透明な状況であり、全体的に生産量が減るとそれに合わせて荷量も減ることになる。

・物流担当部門や取引先と連携してトラックやドライバーの回転率を含めた荷の効率化を進め、ロスを最小限に抑えられるような活動を行っているところである。

【相馬委員】

・ビール業界では以前に比べて1～2割ほど物流が減っていると認識している。家庭用の需要が増えている一方で、業務用としての販売は大きく減っていることからトータルで見るとそのような数字となる。

・ビール類より飲料類の方が状況としては厳しい。主な背景として、在宅勤務の普及によりオフィスに行かなくなったことで自動販売機関係の飲料の売り上げが大きく落ち込んでいることがある。

・今は新型コロナウイルスの状況も次第に良くなってきているが、荷量自体はそれほど増えていないというところである。

【沼本委員】

- ・倉庫協会では会員事業者からの報告をまとめており、岡山県では今年夏前まではトータルではそれほど影響は出ていなかった。扱う品目によって事業者ごとに増減はあるものの、基本的には前年と同じか少し上回る形で推移してきた。
- ・しかし現在取りまとめている8～9月の報告を見ると数量が落ちてきている。要因についてはこれから分析することになる。

【安東委員】

- ・元請けとしてもらう運賃の額は落ちていないが、帰り荷としてスポットで入る場合は荷物の量が少ないので他社と取り合いになり、安い運賃で運ばざるを得なくなる。委託元に運賃が安い理由を聞くと「コロナ価格だから」と言われてしまう。
- ・運賃が下がっていることは業界紙にも取り上げられているが、帰り荷の運賃がなかなか上がらないのは現在も新型コロナウイルスの影響を強く受けていることを示している。

【有利座長】

- ・皆さんの話から、新型コロナウイルスの感染状況の改善とそれが物流に与える影響にはタイムラグがあるものと言える。
- ・事務局から実証実験の事例についての説明があったが、これに関連して藤森委員より取組事例を紹介いただきたい。

【藤森委員】

- ・労働時間改善に向けた動きとして、先月、鹿児島県の運送会社からパイロット事業への協力要請があった。内容としては、鹿児島県から運送してきた茶葉を倉敷で積み替え、静岡まで輸送するというもの。今までは鹿児島県の業者が直接配送していたが、労働時間などの問題を踏まえて中継物流をやろうという話になった。
- ・当社はこれを了承したが、実際には鹿児島県から茶葉の紙袋（30kg）が計12トン入ってきて、作業員6名で1時間半ほどかけて手積みした。この作業は大変なので、手積みをしてから静岡まで運行するにあたり自社のドライバーがなかなか手を挙げてくれない。
- ・相手先には岡山からの帰り荷を段取りしてあげ、ドライバーは当日の夜に鹿児島に帰れることになり喜んでいました。
- ・九州運輸局の担当者も現場の視察に来て、まだまだ改善の余地があるという感触だったが、今後も何度か同様の運行をする予定なので前向きに協力して中継物流を成功させたいと思う。
- ・資料の中にあったスワップボディを用いた運行も、関係先と協力しながら今後検討していかなければならないと考えている。
- ・輸出品を神戸にある倉庫まで持っていく運行では、これまで荷卸しするまで半日待

たされることがあり、これにより帰り荷が取れなくなっていたが、ネットで荷卸し時間を予約できるようになり待ち時間がなくなったという改善事例もあった。

【宮長自動車交通部長（中国運輸局長代理）】

・藤森委員の説明から、やはり手積みというのは労働時間の無駄につながり問題のある行為ということを確認した。今後は統一パレットを用いることなどによる効率化が物流の根本的な目標になると考える。

【林委員】

・先日、当組合の青年部員との話で出てきたのだが、今の若者は「楽しく仕事ができる」ことを最も重視するようだ。「働きやすい職場認証制度」の審査要件にはコンプライアンスや心身の健康といったものがあるが、それらにつながる取り組みを行っていかねば運送会社になかなか目を向けてもらえない現状があると感じている。

・藤森委員の話にあったパイロット事業では、鹿児島から静岡という長距離の輸送となっている。例えばその両端をトラックで担い中間は他の輸送機関を使えばより労働時間の削減につながるのではと思ったが、相手先からそのような話はあったのか。

【藤森委員】

・やはり荷主側の力が強く、少しでも多く積める方法をとることが優先されるのが実情である。今回のパイロット事業とは別の業態の物流担当者に聞いた話でも、この理由でパレット輸送より手積みを採用しているとのことだった。

・パイロット事業では、茶葉をケースに詰めてラップを巻いてパレットに載せるような方法も今後検討していくとの話が関係者とのミーティングであった。

（3）「標準的な運賃」に関する取り組みについて

[資料3に基づき説明（岡山運輸支局）] ～略～

【馬屋原委員】

・アンケート調査の実施時期を本年12月～翌年1月としているが、これまで新型コロナウイルスの影響で荷主へ交渉を含めほとんど話ができておらず、緊急事態宣言が解除されてやっと動けるようになったという状況である。よってこの時期にアンケート調査をしてもどれくらい回答があるのか、そして成果が得られるのか疑問に感じている。

【西田岡山県トラック協会専務理事】

・確かに時期的にはあまり良いとは言えないかもしれない。一方で荷主企業を対象とするのは、「標準的な運賃」についてどの程度認識や理解をされているのか調査するという点で非常に興味深いと思っている。

【有利座長】

・調査対象者それぞれに事情があり、なかなか回答しづらい部分もあると思うが、感覚的なことでも結構なので回答いただき現時点での動きを把握したい。そして回答があった事業者に対してはその後の状況について聞き取りをするなど適宜フォローしながら進めていければと思う。

・運送業界にとって忙しい時期であることは十分承知だが何らかの方法でご協力をいただければ有り難い。

【事務局】

・協議会の運営上、取り組みを行いその年度内で一定の成果を求めるということからこの時期の実施を提案させていただいた。

・今年度得られた結果をもとに次年度の計画を立て、少し変更を加えた形でまた調査をするというように継続的な取り組みとして行っていくことも考えている。

・まず実態を把握するという目的のためご協力をお願いしたい。

【子安労働基準部長（岡山労働局長代理）】

・「改善基準告示」に関して、県内の荷主企業がどれくらい認識しているのかについて、可能であればアンケート調査票に設問を加えてもらいたい。これにより運転者側にも制限があることを意識するきっかけとなり、告示の現状を把握するという意味でも労働局としては有り難い。

【有利座長】

・本取り組みに関していただいたご意見を踏まえた上で、事務局と私で調査票を完成させたい。そして対象者の理解を得ながら調査を進めていきたいと考えるかよいか。了解を得たい。（全員了解）

（４）「ホワイト物流」の推進について

[資料４に基づき説明（岡山運輸支局）] ～略～

【有利座長】

・「ホワイト物流」の根幹にある考え方がもっと広がっていくことが必要であり、これから徐々にでも普及していくことを期待する。

（５）その他

【宮長自動車交通部長（中国運輸局長代理）】

・最近の燃料価格高騰を踏まえ、燃料費上昇分の負担を運送委託者に呼びかけるチラ

シを席上にお配りしている。経済団体の皆様には関係事業者へこのチラシを配付するなどぜひご活用いただきたく、ご協力をお願いしたい。

【高橋委員】

- ・当団体としてもぜひ周知していきたいと考えている。
- ・現在政府が進めているカーボンニュートラルに関して、製品の生産から配送までの流れにおける全体のCO₂排出量を抑えていく動きがあるようだが、例えばトラック輸送の分野で、荷主側が取り組まなければならなくなることについて情報をお持ちであれば教えていただきたい。

【宮長自動車交通部長（中国運輸局長代理）】

- ・物流関係が占めるCO₂排出量のウェイトは依然として高い状況から、今後どのような取り組みを行っていくのかについて、具体的な施策の内容が明らかになってくるものと考えている。
- ・あわせてモーダルシフトについても、モードごとに施設の整備面など様々な課題を抱えていることを踏まえた上で必要な施策がまとめて国から提示されるものと考えている。

【高橋委員】

- ・今後トラックは水素自動車や電気自動車でなければならないといった動きが出てくる可能性もある。今は運転手という労働者の働き方改革が大きな問題になっているが、運送事業の関係企業の状況にも十分配慮いただくことが必要である。運送事業者、運転手、荷主それぞれが上手く回っていかなければ日本経済はどうなっていくのか、問題意識を持っている。
- ・労働時間及び賃金と環境への対応それぞれのバランスを見据えて議論をしていきたい。環境問題に重点的に取り組むことは決して悪いことではないが、全体のバランスを踏まえてという点を経済団体としてぜひお願いしたい。

5. 閉会の挨拶《子安岡山労働局労働基準部長》

- ・本日はご出席の皆様より、実情を踏まえた率直なご意見や情報をご発言いただき感謝申し上げます。
- ・昨年1月以降、新型コロナウイルスの影響で経済や物流の状況が悪化し、対面での接触も基本的に避けるようになったことで、行政の施策について説明する場を設けることも難しかった。このように足元の情報をなかなか集められる機会がない中、皆様からいろいろな情報を教えていただけたのは大変有り難かった。
- ・私どもとしても、雇用調整助成金や休業支援金の速やかな給付、WEB説明会の開催などにより企業を支える施策を行っていきたい。

・「改善基準告示」の検討状況については分かり次第速やかに情報提供させていただき、2024年4月に向けてできることを一歩ずつ進めていきたいので、皆様には引き続きご協力をいただきたくお願い申し上げます。